

『泰西史鑑』にみる古代オリンピック The descriptive content about the ancient olympics in *Taisei Shikan*

都 筑 真

Makoto TSUZUKU

Abstract

The purpose of this study was to clarify the descriptive content about the ancient Olympics in *Taisei Shikan* (Outlines of the history of Western countries). This book is a retranslation of the Dutch translation of German original.

Taisei Shikan contains a wide range of information about the ancient Olympics: its origin, its events, its social function, Olympiad (a period of four years), the honor of winners, the qualification of the participants, the ancient Olympic truce, the fusion of sport competition and the arts, the ancient Olympics as a religious festival.

The ancient Olympics in *Taisei Shikan* are described from various viewpoints and are not interpreted as mere sport competition.

Keywords : *the ancient Olympics, Taisei Shikan, Shigeki Nishimura*

I. はじめに

日本のオリンピック・ムーブメントへの関与は、1909年に嘉納治五郎が国際オリンピック委員会の委員に日本人として初めて就任してからであるといわれている。しかし、それ以前の日本にオリンピックに関する知識が全くなかったわけではない。1896年に近代オリンピックが開催される以前から、日本では古代オリンピックに関する知識が紹介されていたことが、伊藤⁵⁾、木村⁶⁾、Wada¹²⁾、和田¹³⁾、田端・榊原¹¹⁾らの研究によって明らかにされている。

明治期の日本における古代オリンピックの知識の受容過程を書誌学的に跡づけた和田¹³⁾の研究によれば、古代オリンピックの知識は、1)『少年世界』や『文武叢誌』などの雑誌記事、2)体操伝習所の卒業生によって記された体育書、3)西洋史や古代ギリシャ史を含む歴史書という三つの系譜で日本に紹介されたという。

雑誌記事では、「運動會の歴史及種類」と題する記事が『少年世界』の1895年の第1巻7号³⁾に、そして「オリンピア運動會」と題する記事が『文武叢誌』の1896年の29号¹⁾と30号²⁾に掲載され、これらの記事で古代オ

リンピックの内容が紹介されていたことが伊藤⁵⁾、木村⁶⁾、Wada¹²⁾によって示されている。前者の記事では、四大競技祭と「希臘の人種的結團力」を高める競技祭の意義、古代オリンピックの創始と廃止、実施競技、勝者への褒賞などが記されている。後者の記事では、外国でのオリンピック復興計画を紹介した上で、古代オリンピックの起源、実施競技とその進行、勝者への褒賞だけでなく、エケケイリアについて述べたと思われる「神事嬉和」の拡張、文芸との融合、社会融和の機能についても説明されており、古代オリンピックがスポーツの技量を競うだけに留まらなかったことが示唆されている。

体育書では、1878年に体育の研究と教員養成を目指して設置された体操伝習所の卒業生が記した『體育論』¹⁷⁾、『體操原理』^(1) 4)、『普通體育論』⁸⁾の中に古代オリンピックに関する記述が含まれていたことをWada¹²⁾は指摘している。これらの著書は、体育の意義を説くために、古代オリンピックの勝者が得る榮譽について言及している。また、上記3冊の体育書の刊行よりも早い1879年に、体育書と同様に体育を奨励していくために古代オリンピックを取り上げた、「體操術ノ世代」と題する翻訳資料が東京大学法理学部刊行の学術紀要である『學藝志林』に収録されていたことが、田端・榊原¹¹⁾によって明らかにされている。「體操術ノ世代」

では、四大競技祭、古代オリンピックの開催周期、開催期間中の紛争の休止、勝者への褒賞などが紹介されたという。

歴史書では、雑誌記事や体育書よりも早い時期から、西洋史や古代ギリシャ史を含む歴史書の中で、古代オリンピックに関する説明がなされている。和田¹³⁾は、1896年以前に日本で刊行された、西洋史や古代ギリシャ史を含む118冊の歴史書をリストアップし、未確認の14冊を除いた104冊のうち、古代オリンピックに関する記述を含んだものが67冊あったことを明らかにしている。67冊の中で最も古いものは、1870年の『西洋史記』であるという。しかし、未確認の14冊のうち、『西洋史記』より1年前の1869年に出版され、古代オリンピックについて言及した歴史書が存在する。西村茂樹が著した『泰西史鑑』である。同書は、後述するように、ドイツ語の原書をオランダ語訳して刊行された著書を、西村が重訳したものである。

本稿では、古代オリンピックについて言及した日本最古の文献の一つと考えられる『泰西史鑑』をドイツ語の原書とオランダ語の訳書と突き合わせながら、『泰西史鑑』における古代オリンピックの記述内容を明らかにすることを目的とする。本稿が、日本における古代オリンピックの知識のルーツを解明する一助となることを期したい。

II. 『泰西史鑑』について

西村茂樹は、1873年の明六社創設に中心的役割を果たした人物、そして明治政府の欧化傾向に対し国民道徳の回復を唱え、1876年に東京修身学社（のちの日本弘道会）を設立した人物として知られている。蘭学や英学も学んでいた彼は西洋史にも造詣が深く、『万国史略』（1869年）、『校正万国史略』（1873年～1876年）、『教育史』（1875年）など西洋史を中心とした世界史の訳書を多く著しており、『泰西史鑑』もその一つであった。

『泰西史鑑』は、同書の上編第1巻の冒頭に「普魯斯 閔士得府学大教授物的爾著 荷蘭 咖拉弗府学教授 珀爾侃訳 日本 佐倉藩大参事 西邨鼎重訳」と記されているように、プロイセンの「物的爾」（ウエルテル）の原書を、オランダの「珀爾侃」（ベルク）が蘭訳出版したものを、西村茂樹が重訳したものである。『泰西史鑑』が収録されている『増補改訂 西村茂樹全集』⁹⁾の「解題」によれば、ドイツ語の原書は T.B. Welter の *Lehrbuch der Weltgeschichte für*

Gymnasien und höhere Bürgerschulen（以下 *Lehrbuch*）であり、オランダ語の訳書は W. van den Berg の *Handboek voor de algemeene geschiedenis voor gymnasien en opvoedingsgestichten*（以下 *Handboek*）であるという。

西村茂樹が重訳したオランダ語の訳書は、「古代史」の副題がついた第1巻、「中世史」の副題がついた第2巻、そして宗教改革からドイツの3月革命までを扱った第3巻から成っており、第1巻と第2巻は1835年、第3巻は1852年に出版されている。古代オリンピックの記述がみられる箇所は第1巻に含まれている。そして、ドイツ語の原書は、「古代史」の副題がついた第1巻、「中世史」の副題がついた第2巻、「近世・近代史」の副題がついた第3巻から成り、古代オリンピックについて言及した部分は第1巻に含まれている。ドイツ語の原書は多数の増補版が出されており、何年版がオランダ語訳されたのかは不明であるが、オランダ語の訳書の第1巻が出版された1835年よりも前に出された、1831年版の原書の第1巻を本稿では用いることとする。

『泰西史鑑』は、「上古ノ史」と題する上編10巻、「中古ノ史」と題する中編10巻、「近古ノ史」「近世ノ史」と題する下編10巻から成り、上編は1869年、中編は1872年、そして下編は1877年から1881年にかけて出版されている。同書の中で古代オリンピックに関する記述は、上編第4巻の「希臘諸國ノ連繫」の項目に含まれていることから、本稿では同書の出版年を1869年とした。「希臘諸國ノ連繫」の記述を、この箇所に対応するドイツ語の原書とオランダ語の訳書の部分と突き合わせながら、『泰西史鑑』に記されている古代オリンピックの内容を明らかにしていく。

III. 『泰西史鑑』に記された古代オリンピックの内容

本節では、『泰西史鑑』における古代オリンピックに関する記述を内容別に抜粋し、抜粋部分に対応するオランダ語の訳書とドイツ語の原書の箇所を、抜粋部分の下に示した。そして、オランダ語とドイツ語の文章には、筆者による日本語訳を付した。

① 起 源

起源については、「入必的爾」（ゼウス）の「神境」であったオリンピアにおいて「黒爾古列」（ヘラクレス）

が「入必的爾」に敬意を表して「戦闘ノ技」を競う祭儀を開催したこと、そしてその後「騒乱」によって長らく途絶えていた祭儀を「耶利」(エリス)の王である「伊喜多」(イフィトス)が「特爾斐」(デルポイ)の「神語」に従って「再興」させたことが記されている。しかし、『泰西史鑑』で示された「耶蘇生前八百八十八年」(紀元前888年)を古代オリムピックの開始年とする説は、これまでの古代ギリシャスポーツ史研究では見られず、紀元前776を開始年とするのが通説である⁷⁾¹⁰⁾。

伯羅奔尼撒ノ西方海浜ニ近キ所ニ、^{エリス}耶利トイフ地アリ、此地ニ百^{ペネウス}牛トイヘル河アリ、此河ノ浜ニ老木鬱鬱タル茂林アリ、林ノ外ニハ、広坦ナル平原アリ、此地ヲ名ケテ^{オリムピア}阿林皮トイフ、上古ノ時ヨリ、此地ヲ以テ入必的爾(上ニ出ツ)ノ神境ト為ス、黒爾古列ハ、古代ノ豪傑ニシテ、勇猛万人ニ勝レ、其遭遇モ亦奇ナル人ナリ、此人始メテ此地ニ於テ、入必的爾ノ神威ヲ崇尊スルガ為メニ、大ニ戦闘ノ技ヲ演ズ、其後國中騒乱多キヲ以テ、此典寝^{イヒトス}ンデ行ハレズ、耶蘇生前八百八十八年、耶利ノ王伊喜多、特爾斐ノ神語ニ従ヒ、此典ヲ再興ス¹⁶⁾。

In *Elis* bijna aan de westkust van den *Peloponnesus* aan den oever der liefelijke rivier *Peneus* was een overoud bosch, langs hetwelk eene groote platte vlakte liep, welke men *Olympia* noemde. Zij was sedert onheugelijke tijden aan JUPITER toegewijd, want HERKULES, wiens lotgevallen en heldendaden overal door de oudheid zijn gevierd geworden, zoude hier ter eere van JUPITER plegtige speelgevechten ingesteld hebben. Doch deze plegtigheid onderbleef langen tijd, uithoofde der onlusten en oorlogen, die daarop volgden, totdat eindelijk IPHITUS, koning van *Elis* op aanraden der godspraak van *Delphi* in het jaar 888 voor J.C. dezelve vernieuwde¹⁵⁾。

ペロポネソス半島のほぼ西海岸に位置するエリスには、魅力的なペネウス川の岸辺に、オリンピアとして知られる、広大な平野が続く太古の森が存在していた。太古から、オリンピアはゼウスに捧げられてきた。それは、その運命と英雄的な行為が古代全般を通じて知られたヘラクレスが、ゼウスに敬意を表して、ここで武器を用いた競技会を定着させたと言われているためである。しかし、騒乱や戦争が後に

続いたため、長らく、このような祭儀が実施されることはなかった。紀元前888年によく、エリスの王イフィトスが、デルポイの神託を受けて祭儀を復興させた。

In Elis, dem wesentlichen Theile des Peloponnes, am Ufer des reizenden Peneus, lag ein uralter Hain, neben welchem sich eine große ebene Fläche ausbreitete. Diese Gegend und den in derselben gelegenen Flecken nannte man Olympia. Von uralter Zeit her war sie dem Jupiter geheiligt. Hier soll schon Herkules, dessen Abentheuer und Großthaten im ganzen Alterthume gefeiert sind, dem Jupiter zur Ehre, feierliche Waffenspiele angeordnet haben. Wegen der darauf folgenden Unruhen und Kriege aber war diese Feier lange unterblieben, bis endlich im Jahre 888 vor Chr. Iphitus, der König von Elis, dieselben auf Anrathen des delphischen Orakels erneuerte¹⁴⁾。

ペロポネソス半島の西側を流れる魅力的なペネウス川の岸辺にあるエリスには太古の森が存在し、森の周りには広大な平野が広がっていた。この地方やこの地方の一角はオリンピアと呼ばれていた。オリンピアでは太古から、ゼウスが崇められてきた。ここでは、その冒険や偉業が古代全般を通じて称えられたヘラクレスが、ゼウスに敬意を表して、武器を用いた競技会を催したと言われている。しかし、相次ぐ騒乱や戦争によって、長らく、このような祭儀が実施されることはなかった。紀元前888年によく、エリスの王イフィトスが、デルポイの神託を受けて祭儀を復興させた。

② 参加資格

参加資格については、「希臘」の「自主ノ民」であり、刑罰を受けるなどの「瑕疵ナキ者」ならば、誰もが古代オリムピックに参加できたことが述べられている。しかし、「自主ノ民」という語が、奴隷でない者を示す「自由民」と同様の意味で用いられているかどうかについては、『泰西史鑑』から読み取ることができない。

爾來四年毎ニ一次、歳ノ第七月ニ於テ此祭儀ヲ行ヒ、大ニ武技ヲ演ジテ神慮ヲ楽マシム、是ガ為ニ、希臘ノ自主ノ民ノ瑕疵ナキ者(答徒禁錮等ノ刑ヲ被ラザル者ヲイフ)皆出テ祭儀ニ与カル¹⁶⁾。

Sedert dien tijd hadden deze wedspelen alle vier jaren in de maand Julij regelmatig plaats; en elke vrije Griek, op wien door zijn gedrag geene schandvlek kleefde, kon aan dezelve deel nemen¹⁵⁾.

それ以降、競技会が4年毎に7月に開催されるようになり、自身の行いによって自らを汚したことの無い自由民のギリシャ人ならば、誰もが競技会に参加することができた。

Von der Zeit an fanden sie regelmässig alle vier Jahre im Monate Julius Statt, und jeder freie Grieche, der durch keine schimpfliche That sein Leben befleckt hatte, konnte an denselben Theil nehmen¹⁴⁾.

以来、祭儀は4年毎に7月に開催され、そして恥ずべき行為によって自身の人生を汚したことの無い自由民のギリシャ人ならば、誰もが祭儀に参加することができた。

③ エケケイリア

古代オリンピック期間中の休戦を意味するエケケイリアに関連することとして、「祭儀ノ間」は紛争に関することが論じられることなく、「仇敵」同士も一時的に「赦シ」合い、ギリシャ全土から人々が共通の「祭儀」に臨んだことが記されている。

此祭儀ノ間ハ、凡ソ争訟ノ事ハ、悉置テ論ゼズ、縦ヒ殺スベキ仇敵ト雖ドモ、姑ク赦シテ之ヲ他日ニ期シ、全国皆親和歓洽シテ祭儀ニ臨ム¹⁶⁾。

Gedurende deze plegtigheid werd alle twist ter zijde gesteld, zelfs gezworene vijanden legden de wapenen neder, en kwamen als broeders op deze algemeene plegtigheid bijeen¹⁵⁾.

この祭儀が開催されている間、あらゆる争いが休止となり、宿敵同士でさえも武器を置き、同胞として共通の祭儀に駆けつけたのである。

Während der Feier ruhete jede Fehde, selbst die erbittertsten Feinde legten die Waffen nieder und eilten als Brüder zu dem gemeinsamen Feste¹⁴⁾.

祭儀の期間中はいかなる争いも静まり、宿敵同士でさえも武器を置き、同胞として共通の祭儀に駆けつけたのである。

④ 社会的機能

社会的機能については、古代オリンピックが「百貨売買」の場、そして「他国ニ離居」する「朋友」や「親戚」が「互ニ相逢フ」場となることで社会の融和が図られ、さらにギリシャ全土から集った者が「国事」や「家事」について意見を交換し合うことによって社会の改良が図られていくことが述べられている。

又此祭儀ヲ行フノ地ハ、常ニ百貨売買ノ肆ト為ルヲ以テ、四方ノ民皆其処ニ輻湊ス、故ニ朋友親戚ノ他国ニ離居スル者、此祭儀ノ時ニ於テ、互ニ相逢フコトヲ得、或ハ国事ヲ談ジ、或ハ家事ヲ話シ、各其考案スル処ヲ以テ、互ニ相告示ス、民其国ニ帰ルノ後、是ニ依拠シテ、国政家事ヲ改革スル者多シ¹⁶⁾。

Vrienden en verwanten, die ver van elkander verwijderd waren, ontmoetten zich hier, waar zij handelsverbindtenissen aankneopten, en over de staats- en familiebelangen met elkander spraken. Aldus, door hune denkbeelden aan elkanderen mede te deelen, werd de kiem gelegd tot vele verbetering¹⁵⁾.

遠く離れた親友や親戚同士がこの祭儀で顔を合わせ、通商関係が成立し、国家や家族の問題が協議された。このように、互いの考え方を共有することによって、大きな改善に向けての種が蒔かれたのである。

Entfernte Freunde und Verwandte fanden sich hier wieder; hier wurden Handelsverbindungen angeknüpft, hier die Angelegenheiten des Staates wie der Familie besprochen. Durch den gegenseitigen Austausch der Gedanken wurde der Samen zu vielen und mannigfaltigen Verbesserungen ausgestreuet¹⁴⁾.

ここでは、遠く離れた親友や親戚同士が再会し、通商関係が成立し、国家や家族の問題が協議された。互いの考えを交えることによって、様々なことを改善していくための種が蒔かれたのである。

⑤ 実施競技

実施競技に関しては、「較走」、「較車」、「相撲」、「打拳」、「飛跳」、「銅板ヲ擲ツ等ノ技」が古代オリンピックにおいて実施されていたことが紹介されている。こ

ここでは、徒競走を「較走」、戦車競走を「較車」と訳すなど、西洋スポーツが日本に殆ど紹介されていなかった明治初期において、西村が競技名の翻訳に苦心した跡が見受けられる。

祭儀ノ時ニ於テ演ズル処ノ武技ハ、較走、較車、相撲、打拳、飛跳、及ビ「ヂスコス」ト名ル銅板ヲ擲ツ等ノ技ナリ¹⁶⁾。

De spelen, die hier voor het oog van geheel *Griekenland* plaats hadden, bestonden in wedloopen, wagenrijden, worstelen, vechten met de vuist, springen en in het werpen van eene metalen schijf Diskus genaamd¹⁵⁾。

ギリシャ全土が見守る中で実施された競技会は、徒競走、戦車競走、格闘、拳闘、跳躍、そしてディスクスと呼ばれる金属製の円盤の投擲から成っていた。

Die Spiele, welche hier im Angesichte von ganz Griechenland gefeiert wurden, bestanden im Wettlaufe, im Wagenrennen, Ringen, Faustkämpfe, Springen und im Werfen des Diskus, einer metalenen Scheibe¹⁴⁾。

ギリシャ全土が注視する中で実施された競技会は、徒競走、戦車競走、格闘、拳闘、跳躍、そしてディスクスと呼ばれる金属製の円盤の投擲から成っていた。

⑥ 勝者への褒賞

勝者への褒賞については、古代オリンピックでは勝者に「橄欖樹枝」(オリーブの枝)のみが授与されていたことが記されているが、古代ギリシャスポーツ史研究では、オリーブの枝で編まれた葉冠が褒賞であったというのが通説とされている⁷⁾。また、古代オリンピックの勝者の「郷里」では新たな「祭儀」が彼のために催され、「郷里」の「公庫ノ金」が彼に与えられたことも述べられている。

技芸ヲ較スルコト凡ソ五日ニシテ畢ル、然ル後勝者ニ賞ヲ与フ、…勝者ニ与フル処ノ賞ハ、唯一ノ橄欖樹枝ナリ、然レドモ衆人之ヲ榮トスルコト、光彩煒麗ナル王冕ヲ得ルニ勝レトス、既ニ此賞ヲ得ル時ハ、勝者一身ノ榮トナルノミナラズ、其親戚郷里モ

共ニ榮トセラレ、是ガ為ニ、其郷里ニ於テ、更ニ祭儀ヲ行ヒ、其郷里ニ貯フル公庫ノ金ヲ出シテ、其勝者ニ与フ¹⁶⁾。

Vijf dagen duurde de plegtigheid, waarna de prijs uitgereikt werd. …De prijs des overwinnaars was slechts een olijventak, doch de erkenenis voor dergelijke behendigheid overtrof in roem den glans eener koninklijke kroon. En niet alleen hij, die den prijs behaalde, werd hierdoor verheerlijkt; maar ook zijn geslacht en zijne vaderstad, die hem met groote plegtigheid ontving, nieuwe volksfeesten ter zijner eere instelde, en hem voortaan op stadskosten onderhield¹⁵⁾。

祭儀は5日間続き、終了後には賞が授与された。…勝者に与えられる賞はオリーブの枝のみであったが、その技能が称賛される榮譽は、王冠の輝きを超えていたのである。受賞者はこのような形で称えられるだけではなかった。彼の一族や生まれ故郷の町も、大々的な式典を挙げて彼を歓迎し、彼に敬意を表して祭典を改めて催した。また、それ以降は、町の費用で彼を扶養したのである。

Nach Beendigung des Festes, welches fünf Tage währte, wurden die Preise vertheilt. …Der Preis des Siegers war nur ein Olivenzweig; dieses einfache Anerkenntniß der Geschicklichkeit aber überstrahlte an Ruhm selbst den Glanz einer Königskrone. Er verherrlichte nicht bloß den, der ihn errang, sondern auch sein Geschlecht, seine Vaterstadt, die ihn feierlich empfing, neue Feste seinetwegen anordnete und ihn für immer auf öffentliche Kosten ernährte¹⁴⁾。

5日間続いた祭儀が終わると、賞が授与された。…勝者に与えられる賞はオリーブの枝のみであったが、技能の質素な称賛はその榮譽によって、王冠の輝きすら覆ってしまうほどであった。オリーブの枝は、それを獲得した勝者だけでなく、彼の一族や生まれ故郷の町をも称えるものであった。勝者の生まれ故郷の町は大々的に彼を歓迎し、彼のために新たな祭典を催した。また、彼を生涯にわたって公費で扶養したのである。

⑦ 文芸との融合

文芸との融合に関しては、古代オリンピックは「武技」を競う場であっただけでなく、「詩人」、「講師」、「史家」、「笛手」など文芸に携わる様々な人々が集い、自身の文芸の成果を披露する場でもあったことが記されている。

此祭儀ノ時、唯較場ニ於テ、武技ヲ角スルノミナラス、詩人、講師、史家、笛手、其他都テ一芸ニ長ズル者、皆来リテ其技ヲ顕ハサント欲ス¹⁶⁾。

Doch niet alleen werden hier proeven van lichaamsbehendigheid gegeven; maar er verschenen ook dichters, redenaars, geschiedschrijvers, fluitspelers en andere kunstenaars, om hier hunne talenten te toonen¹⁵⁾。

しかし、祭儀で試されたのは身体的技能だけではない。詩人、雄弁家、歴史家、縦笛奏者、そしてそれ以外の芸術家たちも、自身の才能を披露するために祭儀に参加した。

Doch nicht allein Proben der körperlichen Geschicklichkeit wurden hier abgelegt. Auch Dichter, Redner, Geschichtschreiber, Flötenspieler und andere Künstler wurden zum Vortrage ihrer Werke eingeladen¹⁴⁾。

しかし、ここで試されたのは身体的技能だけではなかった。詩人、雄弁家、歴史家、縦笛奏者、そしてそれ以外の芸術家たちも、自身の成果を披露するために招かれていた。

⑧ 開催周期

開催周期に関しては、古代オリンピックの開催周期が「阿林皮的」（オリンピック）と呼ばれていたことが紹介されている。ドイツ語の原書にはオリンピックが「4年」と記されているが、オランダ語の訳書では「4年」の語が訳されなかったため、この語は『泰西史鑑』にも記されていない。また、『泰西史鑑』では、オリンピックが用いられたのが「紀元前七百七十七年」以降と記されているが、古代ギリシャスポーツ史研究では、古代オリンピックの開始年とみなされる紀元前776年以降というのが通説とされている^{7) 10)}。

阿林皮ノ祭儀ハ、暫時ニ盛大ト為リ、紀元前七百七

十七年ニ至リ、其規制大ニ備ハリ、祭儀ヨリ、祭儀ヲリムピアデマデノ時限ヲ名ケテ阿林皮的トイフ¹⁶⁾。

De Olympische spelen waren in korten tijd zoo beroemd, dat de Grieken van het jaar 777 voor J. C. hunne tijdrekening naar dezelve regelden. Zij noemden den tijd van het eene spel tot het andere eene *Olympiade*¹⁵⁾。

このオリンピックの競技会は瞬く間に名声を得ようになり、紀元前777年以降、ギリシャ人は、暦の計算をこの競技会に合わせるようになった。ある競技会から次の競技会までの期間を、彼らはオリンピックと呼んだのである。

Die olympischen Spiele gelangten in kurzer Zeit zu einem so hohen Ansehen, daß vom Jahre 777 v. Chr. an, die Griechen hiernach ihre Zeitrechnung bestimmten. Sie nannten die Zeit von einem Spiele zum anderen, also einen Zeitraum von 4 Jahren, eine Olympiade¹⁴⁾。

オリンピックの競技会は瞬く間に名声を得ようになり、紀元前777年以降、ギリシャ人は、暦の計算をこの競技会に合わせるようになった。ある競技会から次の競技会までの4年の期間を、彼らはオリンピックと呼んだのである。

⑨ 宗教的祭儀としての四大競技祭

古代ギリシャのオリンピック、デルポイ、イストモス、ネメアで開催された、いわゆる四大競技祭は神に捧げられた祭典であった。この四大競技祭についても『泰西史鑑』は言及している。『泰西史鑑』では、ゼウスに捧げられたオリンピックの祭典以外にも、「太陽ノ神」アポロンに捧げられた「皮底斯」（ピュティア）の「祭儀」、「海神」ポセイドンに捧げられた「以斯多密」（イストミア）の「祭」、「入必的爾」（ゼウス）に捧げられた「尼美」（ネメア）の「祭」が紹介されており、古代オリンピックを含めた四大競技祭が神に捧げられた宗教的祭典であったことが示されている。

阿林皮ノ外、希臘國ニハ、猶三個ノ大祭期アリ、一ヲ皮底スノ祭儀トイフ、四年毎ニ、特爾斐ニ於テ、之ヲ行フ、是ハ、太陽ノ神、比口トイヘル毒龍ヲ殺スノ儀ナリ、二ヲ以斯多密ノ祭トイフ（以斯多密ハ、地腰ノ義ナリ、両水、地ヲ夾ムヲ地腰トイフ）、哥林

ノ地腰ノ松林中ニ於テ、年々之ヲ行フ海神ノ祭ナリ、
三ヲ尼美^{ニミス}ノ祭トイフ、伯羅奔尼撒^{ニミイ}ノ内尼美トイヘル
地ニ於テ二年毎ニ行フ入必的爾ノ祭ナリ¹⁶⁾。

Behalve de Olympische spelen waren er ook *Pythische*, die alle vier jaren bij de stad *Delphi*, waar APOLLO den draak PHYTHON zoude dood geschoten hebben, gehouden werden; *Isthmische*, die men alle drie jaren in een pijnbosch op de landengte (Isthmus) van *Korinthe* ter eere van NEPTUN aankondigde, en *Nemische*, die insgelijks alle twee jaren bij het stadje *Nemea* op den *Peloponnesus* ter eere van JUPITER gehouden werden¹⁵⁾。

オリンピアの競技会以外にも、アポロンがピュトンという龍を射殺した場所と伝えられているデルポイという都市で、4年毎に開催されたピュティアの競技会、コリントスの地峡（イストモス）の松林で、ポセイドンに敬意を表して3年毎に開催されたイストミアの競技会、そしてペロポネソス半島のネメアという町で、ゼウスに敬意を表して2年毎に開催されたネメアの競技会が存在した。

Außer diesen olympischen Spielen gab es auch pythische, die alle vier Jahre bei Delphi gefeiert wurden, wo Apollo den Drachen Python mit Pfeilen getödtet haben soll; isthmische, die man auf der Landenge (Isthmus) von Korinth, in einem Fichtenhaine, zu Ehren Neptun alle drei Jahre anordnete; nemeische, die man ebenfalls alle zwei Jahre, zu Ehren Jupiters, bei dem Städtchen Nemea im Peloponnes feierte¹⁴⁾。

このオリンピアの競技会以外にも、アポロンがピュトンという龍を矢で射殺した場所とされるデルポイで、4年毎に開催されたピュティアの競技会、コリントスの地峡（イストモス）の松林で、ポセイドンに敬意を表して3年毎に開催されたイストミアの競技会、そしてペロポネソス半島のネメアという町で、ゼウスに敬意を表して2年毎に開催されたネメアの競技会が存在した。

IV. おわりに

古代オリンピックについて言及した日本で最も古い

文献の一つと考えられる『泰西史鑑』は、ドイツ語の原書 *Lehrbuch* をオランダ語訳した著書 *Handboek* を、西村茂樹が重訳したものであった。

『泰西史鑑』における古代オリンピックの記述内容は、起源や開催周期、実施競技や勝者への褒賞、参加資格、エケケイリアを想起させる開催期間中の紛争の休止、社会的機能、文芸との融合、宗教的祭儀としての四大競技祭など、多岐にわたっていた。古代オリンピックを単なるスポーツ競技会ではなく、宗教的祭儀と捉え、文芸との融合、社会の融和や社会の改良を推進する機能にまで言及した『泰西史鑑』は、後に古代オリンピックを取り上げた雑誌記事と共通する点が見て取れる。『泰西史鑑』は、この点において、勝者が得る栄誉に関する言及に殆ど留まっていた体操伝習所卒業生の体育書とは異なる特徴を持つ、古代オリンピック紹介の書であったといえる。

注

- (1) 『体操原理』では、勝者が得る栄誉だけでなく、四大競技祭、古代オリンピックの起源（紀元前776年）や開催前後における紛争の休止についても記されている。

引用文献

- 1) 碧落外史 (1896) オリンピア運動會, 文武叢誌 29: 36-38.
- 2) 碧落外史 (1896) オリンピア運動會 (承前), 文武叢誌 30: 20-21.
- 3) 北水生 (1895) 運動會の歴史及種類, 少年世界 1 (7): 3-4.
- 4) 星野久成編 (1887) 體操原理, pp.98-100.
- 5) 伊藤明 (1959) オリンピック史, pp.20-23, 逍遙書院, 東京.
- 6) 木村毅 (1978) 日本スポーツ文化史, pp.27-29, ベースボールマガジン社, 東京.
- 7) 木村吉次編 (2010) 体育・スポーツ史概論, 改訂2版, pp.14-16, 市村出版, 東京.
- 8) 松田正典編 (1896) 普通體育論, p.186.
- 9) 日本弘道會編 (2009) 増補改訂 西村茂樹全集, 第7巻, p.875, 思文閣, 東京.
- 10) 桜井万里子, 橋場弦編 (2004), 古代オリンピック, pp. 55-58, 岩波書店, 東京.
- 11) 田端真弓, 榎原浩晃 (2014) 「體操術ノ世代」(明治12年)の記述内容ならびに史料の価値の検討, 体育史研究 31: 47-60.
- 12) Wada, K. (2007) First Contact Olympic Ideas and Ideals in Japan until 1909: Olympic Japan Ideals and Realities of (Inter) Nationalism (Niehaus, A. & Senisch, M. (eds.)), pp.17-32, Ergon Verlag, Würzburg.

- 13) 和田浩一 (2012) オリンピックの用語史：体育・スポーツ史の世界(楠戸一彦先生退職記念論集刊行会編), pp. 283-304, 溪水社, 広島.
- 14) Welter, T.B. (1831) Lehrbuch der Weltgeschichte für Gymnasien und höhere Bürgerschulen, Die alte Geschichte, pp.118-120, Verlag der Coppenrathschen Buch- und Kunsthandlung, Münster.
- 15) Welter, T.B.: van den Berg, W. (1835) Handboek voor de algemeene geschiedenis voor gymnasien en opvoedingsgestichten, De Oude geschiedenis, pp.128-130, J.R. van Dieren, Grave.
- 16) 物的爾著：珀爾偏訳：西村茂樹重訳 (1869) 泰西史鑑, 上編第 4 卷, pp.20-23.
- 17) 横井琢磨編 (1883) 體育論, p.183.

[付記]

本稿は, 科学研究費補助金「明治期日本における知識・教養としての古代オリンピックと近代オリンピズムとの交差点」(基盤研究(C), 2013-2015年度, 研究課題番号25350788) による研究成果の一部である.

(平成27年 9 月15日受付)
(平成27年12月16日受理)